



菅生川水辺マップ

竜美丘会館の辺りから名鉄の鉄橋までを私たちは菅生川と呼び、昔から親しんできました。歴史は古く、南北朝時代の観応2年（1351）の古文書に、参河国菅生郷の地名が見られます。16世紀頃から岡崎城の外堀の役割を果たし、江戸時代には多くの川舟が行き交いました。城下町 岡崎、宿場町 岡崎、川の港 岡崎、私たちのふるさと岡崎は、この菅生川に育まれてきました。

【菅生川の四季】

春

ソメイヨシノ、家康行列、葵桜

岡崎の春を彩る桜には歴史があります。明治初期、荒れ果てた城跡を憂いた旧岡崎藩士を中心に、ソメイヨシノを植え市民の憩いの場とすることが計画されました。苦勞の末、全国に先駆け国から公園の指定を受け、実現したのが岡崎公園の桜です。菅生川、伊賀川沿いを含め約1700本、東海一の桜の名所として「日本さくら名所100選」にも選ばれました。時代絵巻「家康行列」（4月第1または第2日曜日に開催）のクライマックスを飾る勇壮な模擬合戦は、殿橋下流左岸河川敷で繰り広げられます。新たな桜の名所となったのが、竜美丘会館沿いの「葵桜（河津桜）」です。地域住民と自治体が打ち合わせを重ね、平成13年（2001）に85本が植樹され、10年を経た現在では見事な並木となりました。早咲きの葵桜は3月初めには見頃をむかえ、一足早い春の訪れを楽しむ人々ににぎわいます。



ハクセキレイ

カワセミ

【菅生川でバードウォッチング】

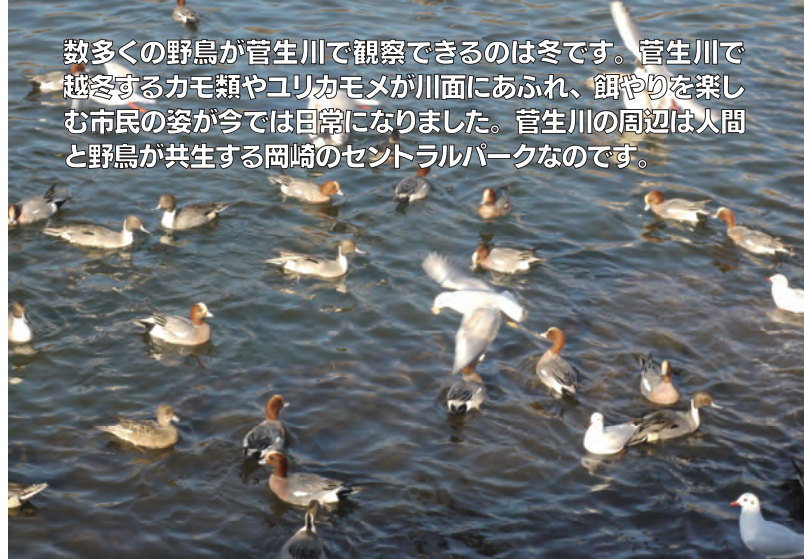
菅生川周辺では、岡崎市内で確認された野鳥184種類の内、116種類が観察されています。（「岡崎公園の野鳥116」岡崎野鳥の会編・1995年刊）菅生川周辺に広がる豊かな自然が、山の鳥、海の鳥、渡り鳥にとって好ましい環境となっていることと、野鳥を観察する人が数多いおかげですが、岡崎の中心市街地に位置しながら、市内で最も多くの野鳥が記録された場所となっていることを誇りに、これからも菅生川を美しくする活動を続けたいと思います。

岡崎の市の鳥となっているハクセキレイは北日本で繁殖する冬鳥で、秋から春にかけて見られます。溪流の宝石と言われるカワセミは河川の横穴に巣を作り、縄張りを持つことから、菅生川一帯で年間を通し見られます。集団で営巣するドバトやムクドリ、カワウは糞害を引き起こす嫌われ者ですが、共に一年中目にする鳥です。その他、年間を通してよく見られる鳥には、ゴイサギ、コサギ、カイツブリ、カルガモ、キジバト、セグロセキレイ、ヒヨドリ、スズメ、ハシボソガラス、ハシブトガラスなどがあります。



ムクドリ

カワウ



【菅生川の橋物語】

今の橋は江戸時代の渡し船が起源

菅生川には上流から吹矢橋、明代橋、殿橋、潜水橋、そして名古屋鉄道鉄橋の5つの橋が架けられています。また、その下流から矢作川との合流点までの間に明神橋と愛知環状鉄道鉄橋があります。これらの橋の多くは、江戸時代に渡し船があった場所です。吹矢橋には吹矢の渡し、明代橋には菅生の渡し、殿橋には高宮の渡し、明神橋には福島橋の渡しがありました。一番早く架橋されたのは殿橋で、正保2年（1645）に時の岡崎藩主本多忠利により架けられました。この時の橋は現在より約100メートルほど下流に位置し、板橋だったので、そのイメージは潜水橋に近いのかも。殿様が作った橋なので、殿橋と呼ばれていたといえます。鉄道橋を架橋する場合、渡河点は人が通る道を外して計画されました。



【菅生川の水生物】

環境浄化で回復し始めた菅生川の魚たち

昭和30年から40年代前半にかけ菅生川の水質は汚染され、その後の環境意識の高まりにより徐々に回復してきましたが、水量は減少したままなので、まだ十分とは言えません。そんな中でも、殿橋付近ではきれいな河川の砂底に棲むカマツカやゼゼラなどの繁殖が見られるようになりました。また、この地方ではシラハエと呼ばれるオイカワやニゴイが生息しています。明代橋、殿橋、潜水橋の辺りで、群がる黒褐色のノゴイに混じりニシキゴイが見られますが、これは河川美化を目的に放流されたものです。

他にも高級食材として知られる上海ガニと同種のモクズガニや、は虫類ではイシガメやクサガメ、外来種のアカミミガメが見られます。



菅生川を美しくする会は、昭和63年（1988）に岡崎市都市景観環境賞を受賞することができました。

夏

江戸時代から続く花火大会

江戸情緒を醸す岡崎の花火大会は菅生神社の祭礼の奉納花火が起源です。打ち上げや仕掛けの他、菅生川に鉾船を浮かべ披露される手筒や錦魚花火は川面を美しく彩ります。錦魚花火は祐金町の「研せん」という刀研師が、明治初期にそれまでの金魚花火に改良を加え、作り出した水中花火です。



秋

住民の力でヒガンバナの大群生

菅生川のあちこちで目にするヒガンバナですが、竜美丘会館北の堤防に咲き誇る群生はひときり見事です。地域住民の呼びかけで多くの善意が集まり、植えた球根の数は、平成21年（2009）と翌年で10万球にも上りました。赤だけでなく、珍しい白や黄色の花が見られる秋の花の名所となりました。



冬

新年を寿ぐ消防出初式

年の初めに岡崎公園の河川緑地で開催される消防出初式には、消防職員、消防団員、婦人自主防災クラブ員など約1800人が参加。大小の消防車約140台による分列行進や一斉放水が行われます。訓練を積み上げる防災ボランティアの皆さんにただただ感謝です。



【菅生川周辺の歴史と文化】

菅生川の川辺を散歩すると、豊かな歴史や文化と、心安らぐ自然に恵まれていることに気づきます。さあ、このパンフレットを片手に、岡崎の人と町を育んだ、私たちの菅生川周辺の歴史と文化に親しんでください。

岡崎公園は家康公の生誕の城址



1 岡崎公園MAP

天文11年(1542)12月26日、徳川家康公は岡崎城で生を受けました。この年が寅年で、生まれた時刻が寅の刻(午前4時頃)であったため、幼名の竹千代の他に、寅童子という愛称で呼ばれていました。公園自体が史跡ですが、ゆったりと散策しながら、往時に思いをはせ、豊かな歴史と自然をお楽しみください。



A 岡崎城天守閣

徳川家康公が生誕した時はまだ本丸に天守閣はありませんでした。天守閣が建てられたのは1590年から1600年にかけて城主を務めた田中吉政の頃のことです。現在の天守閣は昭和34年(1959)に三層五重の往時の優美な姿を復元したものです。内部は1階から4階までが歴史資料の展示室で、5階は天守閣の眺望が楽しめる展望台となっています。



B 坂谷邸趾

岡崎城天守閣の西に家康公の生まれた坂谷邸趾があります。現在は場所を示す石碑のみですが、468年前に、家康公がここで生誕したと思うと感慨もひとおです。265年の長さにおよぶ平和な江戸時代の原点がここににあります。坂谷邸に隣接して産湯の井戸があり、えな塚は南の端の植え込みの中にあります。産湯の水は松平氏発祥の地である豊田市松平町の松平郷館(現松平東照宮)からも運ばれました。えな塚は家康公を包んでいた胎盤を埋めた場所です。

E 龍城神社



家康公と忠勝公を祀る神社です。岡崎藩本多家では、神主の例祭の時に、藩主を先頭に鑑兜に身を固め参拝するのが慣例でした。岡崎の春を彩る「家康行列」は、龍城神社のこの伝統行事に由来します。

F 本多平八郎忠勝公銅像



9 真宮遺跡

川沿いに開けた、縄文時代から平安時代までの住居跡です。国指定の史跡で、発掘の様子を再現した史跡公園となっています。

G 御城下舟着場跡碑



江戸時代の物資は船で輸送されることが一般的でした。菅生川には土場と呼ばれた川港があり、殿様の東が「御用土場」、明代橋の西が「桜の馬場土場」、明代橋の東が「満性寺土場」と言われていました。

H 東照公遺訓碑



本多忠勝公は、敵からも「家康に過ぎたものが二つあり、唐の頭に本多平八」と語られた徳川四天王のひとりです。槍を得意とし、要用の6メートル程の長槍は、飛び回る蜻蛉(とんぼ)を切り落とすことから「蜻蛉切り」と呼ばれていました。子孫は明和6年(1769)から明治維新まで6代、100年にわたり、神君家康公生誕の城を守る岡崎藩となりました。

2 菅生神社

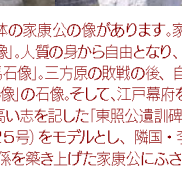
岡崎の夏の風物詩「岡崎観光夏祭り・花火大会」は、菅生神社の奉納花火が起源です。江戸時代、神社の前には殿様の元となった「菅生橋」がありました。

3 恵美須神社

浄瑠璃の父・義高長者が建てた神社と伝えられています。町名の島町は菅生川の中州だったことに由来します。

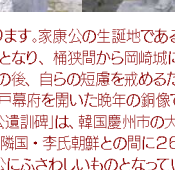


10 三郡輪中治水之碑



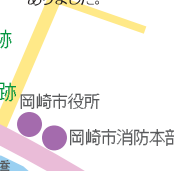
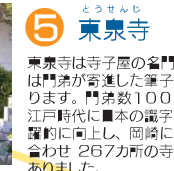
4 満性寺

正応2年(1289)創建。鎌倉時代後期に作られた聖徳太子立像など、美術的価値の高い寺宝を多数所蔵。江戸時代末の俳句界を主導した諸■草池の句碑と墨があります。



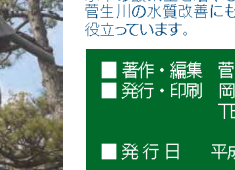
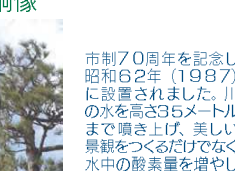
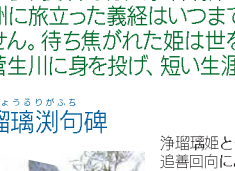
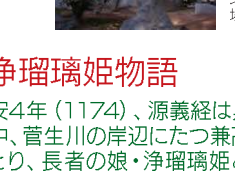
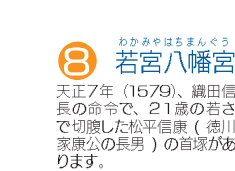
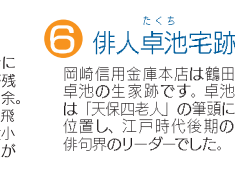
5 東泉寺

東泉寺は寺子屋の発祥。寺には門跡が寄進した簗子塚が残ります。門跡数1000人余。江戸時代に■本の識字率は飛躍的に向上し、岡崎には大小合わせ267カ所の寺子屋がありました。



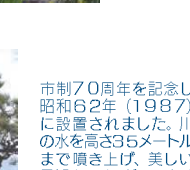
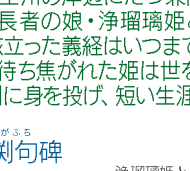
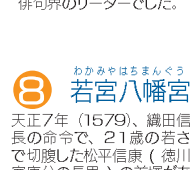
7 菅江真澄生家跡

江戸時代後期に西本願寺三河別院辺りで生まれた菅江真澄は、50年にわたる諸国歴訪で日本の民俗学のさがけとなりました。姓の「菅江」は菅生川のことです。



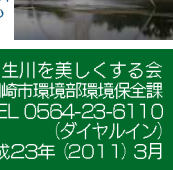
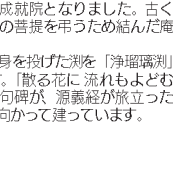
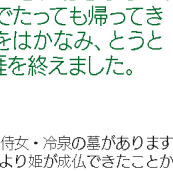
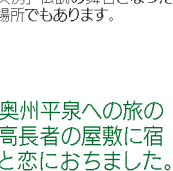
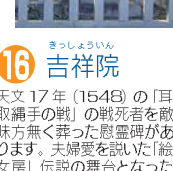
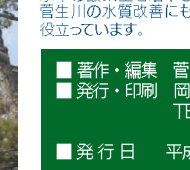
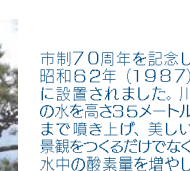
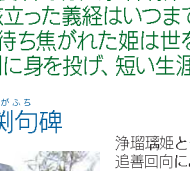
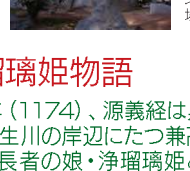
6 俳人卓池宅跡

岡崎信用金庫本店は鶴田卓池の生家跡です。卓池は「天保四老人」の筆頭に位置し、江戸時代後期の俳句界のリーダーでした。



8 若宮八幡宮

天正7年(1579)、織田信長の命令で、21歳の若さで切腹した松平信康(徳川家康公の長男)の首塚があります。



浄瑠璃姫物語

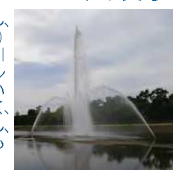
承安4年(1174)、源義経は奥州平泉への旅の途中、菅生川の岸辺にたつ兼高長者の屋敷に宿をとり、長者の娘・浄瑠璃姫と恋におちました。奥州に旅立った義経はいつまでも帰ってきません。待ち焦がれた姫は世をはかなみ、とうとう菅生川に身を投げ、短い生涯を終えました。

15 成就院と浄瑠璃刈句碑



浄瑠璃姫と侍女・冷泉の墓があります。追善回向により姫が成仏できたことから、寺号は成就院となりました。古くは冷泉が姫の菩提を弔うため結んだ庵でした。浄瑠璃姫が身を投げた淵を「浄瑠璃刈」といいます。「散る花に流れもよむ姫の刈」の句碑が、源義経が旅立った奥州平泉に向かつて建てられています。

▲乙川噴水



市制70周年を記念し、昭和62年(1987)に設置されました。川の水を高さ35メートルまで噴き上げ、美しい景観をつくるだけでなく、水中の酸素量を増やし、菅生川の水質改善にも役立っています。

■ 著者・編集 菅生川を美しくする会
■ 発行・印刷 岡崎市環境部環境保全課
TEL 0564-23-6110 (ダイヤルイン)
■ 発行日 平成23年(2011)3月